

野菜畑作生産情報 第7号

平成29年10月19日
青森県「攻めの農林水産業」推進本部



◎大豆とながいも等は、適期収穫で良品生産に努めましょう！
◎小麦は、ほ場の排水対策と雪腐病防除を徹底しましょう！

畑作物

1 大豆

(1) 生育状況

- ・ 成熟期は、やや遅れている所も一部あるが、おおむね平年並みである。
- ・ 一部ほ場では収穫適期に達している。

(2) 今後の留意点

ア 収穫適期の目安

コンバインによる収穫適期は、茎水分50%以下（主茎の中央部を爪でこすったとき、表皮が乾いてむけない状態になった頃）、子実水分20%以下となった時期である。

イ 収穫

- ・ ほ場内の雑草や青立ち株は汚粒の原因となるので、収穫前に必ず抜き取る。
- ・ 収穫時期が早すぎると、茎や子実の水分が高いため汚粒が発生する。また、遅すぎると降雨等による被害粒が増加し、収量や品質が低下するので、ほ場毎に成熟期を確認し、計画的に刈取りを行うなど、適期収穫に努める。
- ・ 収穫は、朝露等による湿りがない時間帯（一般的には午前10時～午後4時）に実施する。
- ・ コンバイン収穫における土のかみ込みによる汚粒の発生を防ぐため、無理に地際部まで刈取らない。

ウ 乾燥調製

- ・ 乾燥は検査規格の子実水分15%以下に仕上げる。
- ・ 循環式乾燥機では、子実水分18%までは通風のみで乾燥させる（乾燥速度0.3%毎時以下）。また、循環速度はなるべく遅くするなど、しわ粒や裂皮粒などの発生を抑える。
- ・ 静置式乾燥機では、送風速度を30℃以下、穀温が外気温より15℃以上に上がらないよう送風温度を設定し、ときどき攪拌しながら乾燥させる。

2 小麦

(1) 生育状況

は種後の生育は、おおむね良好である。

(2) 今後の留意点

- ・ 湿害を防止するため、明きよの設置など排水対策を徹底する。
- ・ 耐倒伏性の向上や凍霜害の回避のため、10月下旬から11月中旬にローラー等で麦踏みを行う。ただし、粘土質土壌や転作田など排水の悪いほ場では、生育が阻害されるので行わない。
- ・ 紅色雪腐病、雪腐褐色小粒菌核病、褐色雪腐病の防除として、11月中旬から下旬に薬剤散布を行う。

野菜

1 ながいも

(1) 生育状況

- ・ 生育は、平年を下回っている。
- ・ 10月に入ってから茎葉の黄化が見られる。

表-1 ながいもの生育状況 (10月10日現在)

場 所	年次	植付期 (月日)	萌芽 揃期 (月日)	茎葉重 (g)	いも長 (cm)	いも重 (g)	いも 最大径 (mm)
野菜研究所 (六戸町)	本年 (平年比)	5/25 (1日早)	6/29 (±0日)	565.3 (132%)	64.0 (88%)	1,270 (93%)	76.1 (110%)
	平年	5/26	6/29	429.1	72.7	1,367	69.0
	前年	5/25	6/26	511.2	70.3	1,297	64.7
五戸町 上市川	本年 (平年比)	5/8 (6日早)	6/8 (8日早)	— (—)	82.0 (96%)	1,044 (80%)	54.6 (87%)
	平年	5/14	6/16	—	85.0	1,306	63.0
	前年	5/6	6/10	—	100.3	1,130	51.8
東北町 野田頭	本年 (平年比)	5/16 (±0日)	6/12 (2日遅)	— (—)	64.0 (90%)	909 (91%)	62.9 (110%)
	平年	5/16	6/10	—	71.0	996	57.3
	前年	5/12	5/30	—	68.7	925	55.4

注) ①平 年：野菜研は平成19～28年の10か年の平均値。

五戸町は平成14～28年の15か年の平均値。

東北町は平成18～28年の11か年の平均値。

②種 子：野菜研は園試系6の2年子(90～110g)頂芽切除。

五戸町は庄司系の2年子(120～150g)頂芽切除。

東北町は庄司系の1年子(50～80g)頂芽付。

③栽植様式：野菜研は畦幅120cm×株間24cm(3,472株/10a)。

五戸町は畦幅120cm×株間22cm(3,788株/10a)。

東北町は畦幅110cm×株間21cm(4,329株/10a)。

④東北町の萌芽揃期は萌芽期の値。

(2) 今後の留意点

ア 収穫

- ・ 収穫は、茎葉が完全に黄変し、試し掘りでアクが発生しないことを確認してから開始する。
- ・ 雨天など過湿なほ場条件での掘取作業は、貯蔵中の腐敗を招くので行わない。
- ・ 掘取りに当たっては、表皮を傷つけたり直射日光や風に当てないように注意する。

イ 茎葉・ネットの適正処理

- ・ 茎葉の絡んだ「ながいもネット」は、堆肥化等により減量し、ネットと茎葉を分別した上で適正に処理する。

2 秋冬だいこん

(1) 生育状況

- ・ 生育は、平年を下回っている。

表-2 秋冬だいこんの生育状況（10月10日現在）

場 所	年次	は種期 (月日)	葉 長 (cm)	葉 数 (枚)	根 重 (g)
東 北 町 滝沢平	本年 (平年比)	8/ 5 (3日早)	42.9 (100%)	19.2 (90%)	582 (61%)
	平年	8/ 8	43.1	21.4	948
	前年	8/ 9	37.0	18.9	576

注) ①平 年：平成13年～28年の16か年の平均値。

②品 種：夏の翼。

③栽植様式：畦幅50cm×株間21cm、1条植え（9,524株/10a）。

(2) 今後の留意点

- ・ ほ場毎の試し掘りで肥大状況を確認し、収穫する。

3 冬のハウス栽培の留意点

- ・ 降雪、強風等に備えて、ビニールやマイカ線などの点検・補修を行う。
- ・ 二重被覆などにより保温効率を高めるとともに、暖房機の着火装置などの保守点検を行う。
- ・ ハウスからの放熱を防ぐため、被覆資材の破れを修復するほか、つなぎ目の隙間をふさぐ。
- ・ 古い被覆フィルムは採光性が劣ることがあるので、透過性の高いものに替え、汚れが付着したフィルムは洗浄する。
- ・ ハウス内の温度は、循環ファン等を設置して施設内の温度ムラを減らすとともに、時間帯に応じた細やかな温度管理ができる変温装置を活用したり、暖房機の温度を生育適温の下限に設定するなど適正な温度管理に努める。

施設園芸省エネルギー生産管理マニュアル
(http://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/kenyu_koutou/n_energy/pdf/manual.pdf)
施設園芸省エネルギー生産管理チェックシート
(http://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/kenyu_koutou/n_energy/pdf/check.pdf)

◎ハウス用ビニールやマルチなどの使用済プラスチック類は、市町村適正処理協議会や農協の回収システムなどを利用し、適正に処理しましょう。

◎日本一健康な土づくり強化月間（9月～11月）
安全・安心な農産物を安定して生産するためには、土づくりが重要です。堆肥の施用や土壌診断などにより、健康な土づくりに取り組みましょう。

◎秋の農作業安全運動展開中！（8月15日～10月31日）

- 1 高齢者の事故多発！農作業は、焦らず、急がず、慎重に！
- 2 ほ場への出入りや傾斜地は要注意！機械の転倒・転落を防ごう！
- 3 機械点検時にはエンジン停止！機械への巻き込まれに注意！
- 4 高所作業では、周囲の状況を確認し、身体の安定を保とう！

◎農薬は適正に使用しましょう。

- 1 農薬の飛散を防止する！
- 2 農薬は使い切り、河川等へ絶対捨てない！
- 3 農薬を使用する場合には、必ず最新の農薬登録内容を確認！

農薬情報(http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/)

農薬登録情報提供システム

【詳細検索】(<http://www.acis.famic.go.jp/search/vtllp301.jsp>)

【作物名検索】(<http://www.acis.famic.go.jp/search/vtllp101.jsp>)

連絡先	農産園芸課野菜・畑作物振興グループ
県庁内線	5078
直通	017-734-9481
